

授業科目(ナンバリング)	相談援助の理論と方法ⅡA(DA308) (実践的教育科目)			担当教員	ヴィラーク ヴィクトル (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉士(ソーシャルワーカー)に求められる専門力の向上を中心に取り組み、相談援助(ソーシャルワーク)において求められる各種理論及び方法に関する基礎的な知識の習得を目指す。</p> <p>具体的には、ソーシャルワークの対象、ケースマネジメント(ケアマネジメント)、様々な実践モデルとアプローチについて学ぶことをねらいとする。その中で、実践に対する理論的な思考を養い、実習に向けて求められる基礎的な理解を深める。</p>							①④⑥⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ソーシャルワークに関する理論及び方法について説明できる。				定期試験	40%	
情報収集、分析力	ソーシャルワークに関する基礎的な用語・概念を整理できる。				単語帳	20%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	ソーシャルワークに関する事例に取り組むことができる。				定期試験	10%	
多様性理解力	ソーシャルワークに関する多様な理論について理解できる。				小テスト	30%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験(50%)では、ソーシャルワークの対象、ケースマネジメント、様々な実践モデルとアプローチに関する知識の習得度を評価する(持ち込み不可;再試験を受ける場合に必ず事前に教員に相談すること)。小テスト(30%)では、学んだ理論の理解度を問う。単語帳(20%)では、専門用語について自分の言葉で適切にまとめられるかを評価する。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内でフィードバックを行う。</p> <p>なお、不適切な授業態度(教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等)は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>基本的には講義形式で授業を進めるが、理解を深めるためのグループワークとレスポんを使った社会福祉士国家試験の過去問題も頻繁に取り入れる。ソーシャルワークの対象から出発し、ケースマネジメントをはじめとして各種実践モデルとアプローチを学ぶ。「ソーシャルワークとは何か」という根本的な問いを常に意識し、教員の国際ソーシャルワーカー連盟地域会長補佐、外国人支援団体の相談員と重度訪問ヘルパーとしての実務経験を基に、ソーシャルワーク特有の人間観と援助観を身につける。</p> <p>本科目の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編(2015)『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規出版</p> <p>参考書：久保絃章・副田あけみ編(2005)『ソーシャルワークの実践モデル』川島書店。</p> <p>指定図書：川村隆彦(2011)『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>社会福祉士国家試験受験資格の指定科目であるため、国家試験を意識すること。講義を軸にしながら、予習・復習の一環として教科書を事前・事後に確認し、専門書を読む習慣を身につけるなど、抽象度及び専門性の高い内容に対する理解を深められるように努力すること。</p> <p>なお、本科目専用のノートはもちろん、聞き慣れない専門用語について自分にとって分かりやすい言葉で記入する単語帳を導入することを強く勧め、定期的に確認し、評価の対象とする。</p> <p>また、出席管理に影響するため、教員が示す座席指定表に従って座ること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 相談援助の対象	授業の進め方、評価等の確認を行い、予備知識と期待を整理する。 ソーシャルワークの対象の概念と範囲について学ぶ。	予習：教科書 1-20 頁 復習：小テストの準備
2	ケースマネジメントとケアマネジメント	ケースマネジメント（ケアマネジメント）の概要、過程、特徴について学ぶ。（小テスト①）	予習：教科書 27-58 頁 復習：小テストの準備
3	様々な実践モデルとアプローチ①	治療・生活・ストレングスモデルとその関係について学ぶ。（小テスト②）	予習：教科書 137-142 頁 復習：小テストの準備
4	様々な実践モデルとアプローチ②	心理社会的アプローチについて学ぶ。（小テスト③）	予習：教科書 150-152 頁 復習：小テストの整理
5	様々な実践モデルとアプローチ③	機能的アプローチについて学ぶ。（小テスト④）	予習：教科書 153-155 頁 復習：小テストの準備
6	様々な実践モデルとアプローチ④	問題解決アプローチについて学ぶ。（小テスト⑤）	予習：教科書 156-158 頁 復習：単語帳の準備
7	様々な実践モデルとアプローチ⑤	課題中心アプローチについて学ぶ。（単語帳提出①）	予習：教科書 159-161 頁 復習：小テストの準備
8	様々な実践モデルとアプローチ⑥	危機介入アプローチについて学ぶ。（小テスト⑥）	予習：教科書 162-164 頁 復習：小テストの準備
9	様々な実践モデルとアプローチ⑦	行動変容アプローチについて学ぶ。（小テスト⑦）	予習：教科書 165-167 頁 復習：小テストの準備
10	様々な実践モデルとアプローチ⑧	エンパワメントアプローチについて学ぶ。（小テスト⑧）	予習：教科書 174-177 頁 復習：小テストの準備
11	様々な実践モデルとアプローチ⑨	ナラティブアプローチについて学ぶ。（小テスト⑨）	予習：教科書 178-181 頁 復習：小テストの準備
12	様々な実践モデルとアプローチ⑩	認知アプローチについて学ぶ。（小テスト⑩）	予習：教科書 182-185 頁 復習：単語帳の準備
13	様々な実践モデルとアプローチ⑪	その他のアプローチについて学ぶ。（単語帳提出②）	予習：教科書 186-191 頁 復習：様々な実践モデルとアプローチの復習
14	様々な実践モデルとアプローチ⑫	様々な実践モデルとアプローチに関する過去問題を解く。	予習：過去問題の回答 復習：疑問点の整理
15	まとめ	受講生自身による前期の振り返りとまとめを行う。	予習：前期の振り返り 復習：前期の復習
16	定期試験	試験	